

さんぼんまつこう

三本松港（県管理地方港湾）

三本松港は東讃の商工業の中心である大内町東北部に位置し、白鳥町の一部も含んでいます。

本港は江戸時代、高松藩の殖産振興策として砂糖の製造が広く行われ、その会所のひとつが三本松に置かれたことから、当時、讃岐最大の砂糖の積出し港として栄え、今日の発展の基礎を築きました。

明治に入っては政府の富国政策から、大規模な製糖会社や糖業組合が組織され、これを契機に三本松は東讃経済圏の中心としての地位を確立し、港はその発展を支える重要な施設として、その役割を果たしてきました。

また、昭和6年には当時、東洋一を誇る紡績工場が港に立地し、これを契機に本格的な港湾整備が始まり、以後、数次の改修を経て、現在に至っています。

現在では、商港、漁港として地域の物流、水産業の拠点的役割を果たしており、係留施設の不足に対応するため、平成12年度に新たな物揚場が整備され、新しい時代に向けた地域開発の一翼をになう総合港湾として、ますますの発展が期待されています。

